

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	16-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Dietary intake and peripheral arterial disease incidence in middle-aged adults: the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study. 中年成人における食事摂取と末梢動脈疾患発症：ARIC 研究		
執筆者		
Ogilvie RP, Lutsey PL, Heiss G, Folsom AR, Steffen LM.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2017 Mar;105(3):651-659. doi: 10.3945/ajcn.116.137497.		
キーワード		PMID
食事パターン、食品群摂取、飲酒、末梢動脈疾患		28077376
要 旨		
目的： 食品摂取や食事パターンと 20 年間の末梢動脈疾患（PAD）発症との関連を明らかにする。		
方法： ARIC 研究に参加した 14,082 人において 1987-89 年のベースライン修正 Harvard 食品頻度調査を行った。食品群摂取から主成分分析を用いて「健康的」および「西洋的」食事パターンを抽出し、5 分位または 4 分位を作成した。PAD 発症は 2012 年までの ABI 0.9 未満発現または入院歴で把握し、Cox 比例ハザードモデルで多変量解析した。		
結果： 20 年間の追跡期間中 1,569 人が PAD を発症した。多変量調整モデルにおいて、肉摂取量が多いほど PAD 発症ハザード比は上昇した。非飲酒者に比べて、週 1-6 drink の人では PAD 発症リスクが小さかった（ハザード比 0.78）。コーヒーを飲まない人よりも 1 日 4 杯以上では発症リスクが低かった（ハザード比 0.84）。ほかの食品群や食事パターンとの関連は認めなかった。		
結論： 本前向きコホート研究において、多い肉の摂取により PAD 発症リスクは高くなり、適度の飲酒で PAD 発症リスクは低くなった。因果関係については詳細に検討する必要がある。		